

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までに学習した漢字を正しく書くこと。 自分の考えや気持ちを分かりやすい文章で表すこと。 説明文や物語文の学習において、中心となる語や文を見付け出したり、叙述から心情を読み取ったりすること。 文書を要約することに苦手意識を薄めていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイム等で東京ベーシックドリルを用いて、個人の習熟度に応じた漢字練習を繰り返し行う。 5W1Hを意識した基本的な書き方を指導し、つなぎ言葉を意識させた文章構成を国語だけでなく、全教科で横断的に取り組んでいく。 授業の中で文型を示すことで、様々な文章を活用していけるようにする。 繰り返し出てくる語句に線を引かせる。ワークシートを工夫し、スモールステップで中心となる語や文を見付け出しやすくする。 ワークシートを工夫することにより、中心となる語や文を分かりやすくし、これらを活用して、文章を要約できるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県の位置と名称、東京都の区市町村の位置や文京区周辺の位置関係等、学習内容を確実に定着させること。 既習事項を生活経験と関連付けて、学習の見通しをもつこと。 資料から読み取ったことを根拠として、自分の考えを導き出すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイム等で東京ベーシックドリルを用いて、習熟度に応じて復習を行ったり、授業の始めにフラッシュカード等で繰り返し復習を行ったりして、知識を定着させる。 既習の内容や個々の児童の生活経験を単元の最初に児童と共に確認し、壁面に掲示する。また学習したことをその都度更新していく。 グラフや表の読み方については、算数の学習を振り返りながら、定着を図る。また、資料をノートに貼れるように用意し、読み 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 角度を読んだり、一億より大きい数を書いたりすることを円滑に行うこと。 コンパスや分度器を使って、図形を正確に描くことがある。 自分の考えを式や図に表し、既習の考えを基に説明すること。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイム等で東京ベーシックドリルを使用し、習熟度に応じた復習を繰り返し行い、既習事項の定着を図る。 図形領域の単元を中心に、作図を行う時間を十分に確保し、技術の習得を図る。また、意図的にコンパスや分度器を使う場面を作り、日常的に慣れさせながら技能の向上を図る。 立式をするときには、既習の数直線やテープ図をかかせたり、自分の考えを説明させたりすることを繰り返して、説明する力を伸ばしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や既習事項から根拠をもった予想を立てること。 身近な植物や生き物の活動・成長と季節の変化を関連付けること。 月や星の位置の変化と方角、時刻を関連付けて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠をもった予想を立てるために、既習の内容や個々の児童の生活経験を単元の最初に児童と共に確認し、壁面に掲示する。また学習したことをその都度更新していき、次時の学習の手立てとする。 各季節ごとに写真でも記録をとり、タブレット端末を使って年間を通して集約する。多くの事例を共有し、成長と季節の変化を関連させる。 タブレット端末で撮影し、視覚的に比べやすくしてから、月の観察を行い個々の記録を集約し、位置と方角を意識づける。半月と満月の場合で繰り返し行うことで、さらに位置の変化を関連付ける。 	

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取り、楽曲にふさわしい歌い方や演奏の仕方をする こと。 ・音楽の諸要素についての既習事項を確実に定着させること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想に関する語彙を増やしていけるよう、児童が自分の感じ方を大切に、ペア学習や全体で意見交換して考えを広げられるようにする。また、楽曲の特徴を感じ取り、身体表現をしてから言葉で表現することで楽曲に親しみながら学習し、音楽に対する関心を高める。 ・音楽の諸要素については既習事項を確認しながら、リズム、旋律などの知識の定着を図る。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい道具や技法に対して興味・関心が高いが、既習した技法を他の題材に生かすこと。 ・水彩絵の具における水の加減や筆の使い方など、自分の感覚を使って調節したり、操作したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料を使う前に既習の技法を確認する。 ・道具や材料の使い方によって作品の幅が広がるような題材設定を行う。 ・題材ごとに既習の道具も使い方を基礎から振り返り指導する。机間指導で個別に声掛けをし、意識付けと技能の定着を図る。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げる力の向上を図ること。 ・作戦を考えてゲームに取り組んだり、チームで協力して取り組む経験を積ませていくこと。 ・勝敗に固執せず、仲良く取り組む事ができるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールなどの道具の正しい操作の仕方を指導するとともに、運動量を確保し、技能を習得する時間を設ける。 ・ゲームごとに作戦を立て、協力して作戦を遂行できたか振り返りをする時間を確保する。タブレット端末を使って、自分たちの動きを見たり、手本の動きを見たりできるようにする。 ・仲間と運動する楽しさを実感させたり、相手がいることで取り組めるといゲームの重要性に気付かせたりすることで他者を尊重する心を育む。 	